

科目名	言語文化研究演習 I			担当教員：山田均
科目名(英語)	Seminar on Language and Culture I			メールアドレス：yamathai@ona.att.ne.jp
単位数	受講年次	開講学期	研究室	研究室電話番号：0980-51-1232
4	1	通年	509	オフィスアワー
火5、水5				

#### 1. 講義内容

修士論文の作成を指導する。  
一つのテーマを立てることから、資料収集、その整理、論文の骨格作り、実際の執筆、註のつけ方など、論文というかたちで高度な研究内容を表現するための一切を指導する。  
一応、時間割に演習の時間（火曜2時限目）をさだめてはあるが、実際には学生個々人の個人指導であり、講師との相談で時間を定めて個人指導を行う。

#### 2. 履修要件

アジアの文化事象に関することをテーマにしていること。  
外国の文化を扱う場合は、必要な外国語の知識があることまたは修得する意思のあること。

#### 3. テキスト

とくになし。

#### 4. 参考文献

とくになし。自分の専門分野はもちろん、広範囲の多読を心がけること。

#### 5. 講義予定

- 第1回 インTRODakション
- 第2回 論文とは
- 第3回 テーマの定め方
- 第4回 テーマの搾り方
- 第5回 文献の集め方
- 第6回 文献の整理の仕方
- 第7回 研究ノート の作り方
- 第8回 研究ノート の実際
- 第9回 さまざまな資料
- 第10回 さまざまな資料の収集と整理に関して
- 第11回 論文の構成① 大項目の決定
- 第12回 論文の構成② 中項目の決定
- 第13回 論文の構成③ 小項目の決定
- 第14回 論文の構成④ 第一クロッキー
- 第15回 まとめ

#### 6. 評価方法

論文作成上の各段階における出来具合で評価する。  
オリジナリティ、参考文献、構成、作法、深度にそれぞれ20点の割合で評価する。

#### 7. その他

基本的には放任主義であるが、密なる対話が前提となった放任であるから、誤解のないようにお願いします。対話の時間は惜しみません。

科目名	言語文化研究演習 I			担当教員：渡慶次正則
科目名(英語)	Seminar in Language and Culture I			メールアドレス：tokeshizemi@hotmail.co.jp
単位数	受講年次	開講学期	研究室	研究室電話番号：0980-51-1235
2	1	通年	512	オフィスアワー
月曜日6時限				

1. 講義内容

Seminar in Language and Culture I 2.履修条件  
特になし

2. 履修要件

3. テキスト

随時指定

4. 参考文献

随時指定

5. 講義予定

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 リサーチの種類や果たす役割や重要性について  
テーマについて考える
- 第 3 回 リサーチ・デザインについて
- 第 4 回 質的研究について (1)
- 第 5 回 質的研究について (2)
- 第 6 回 量的研究について (1)
- 第 7 回 量的研究について (2)
- 第 8 回 テーマの選択について
- 第 9 回 テーマの決定
- 第10回 リサーチ・プロポーザル下書き(データ収集方法)
- 第11回 リサーチ・プロポーザル下書き作成 (データ分析方法)
- 第12回 リサーチ・プロポーザル下書き作成 (文献)
- 第13回 リサーチ・プロポーザル下書き作成 (文献)
- 第14回 リサーチ・プロポーザル下書き作成 (序論)
- 第15回 リサーチ・プロポーザル下書き完成

6. 評価方法

リサーチ・プロポーザルやゼミへの取り組みで評価

7. その他

特になし

科目名	言語文化研究演習Ⅱ			担当教員：山田均
科目名(英語)	Seminar in Language and Culture I			メールアドレス：yamathai@ona.att.ne.jp
単位数	受講年次	開講学期	研究室	研究室電話番号：0980-51-1232
4	2	通年	509	オフィスアワー
火5、水5				

#### 1. 講義内容

演習Ⅰに引き続き、修士論文の作成を指導する。  
一つのテーマを立てることから、資料収集、その整理、論文の骨格作り、実際の執筆、註のつけ方など、論文というかたちで高度な研究内容を表現するための一切を指導する。  
一応、時間割に演習の時間（火曜2時限目）をさだめてはあるが、実際には学生個々人との個人指導であり、講師との相談で時間を定めて個人指導を行う。

#### 2. 履修要件

アジアの文化事象に関することをテーマにしていること。  
外国の文化を扱う場合は、必要な外国語の知識があることまたは修得する意思のあること。

#### 3. テキスト

とくになし。

#### 4. 参考文献

とくになし。自分の専門分野はもちろん、広範囲の多読を心がけること。

#### 5. 講義予定

- 第1回 夏季休暇中の研究の研究進捗状況報告会
- 第2回 クロッキーの発展①
- 第3回 クロッキーの発展②
- 第4回 先行研究の取り扱い
- 第5回 先行研究について発表会
- 第6回 クロッキーの発展③
- 第7回 註のつけ方
- 第8回 文献表のチェック①
- 第9回 文献表のチェック②
- 第10回 文献表のチェック③
- 第11回 附録資料のことなど①
- 第12回 附録資料のことなど②
- 第13回 第2クロッキーの作成①
- 第14回 第2クロッキーの作成②
- 第15回 まとめ

#### 6. 評価方法

論文作成上の各段階における出来具合で評価する。  
オリジナリティ、参考文献、構成、作法、深度にそれぞれ20点の割合で評価する。

#### 7. その他

基本的には放任主義であるが、密なる対話が前提となった放任であるから、誤解のないようにお願いします。対話の時間は惜しみません。

科目名	言語文化研究演習Ⅱ			担当教員：渡慶次正則
科目名(英語)	Seminar in Language and Culture I			メールアドレス：tokeshizemi@hotmail.co.jp
単位数	受講年次	開講学期	研究室	研究室電話番号：0980-51-1235
2	2	通年	512	オフィスアワー
月曜日6時限				

1. 講義内容

修士論文の研究・プロポーザルを完成させ、中間発表を経て、修士論文を完成させることを目的とする。

2. 履修要件

リサーチ・プロポーザルの下書きを完成すること。

3. テキスト

随時指定

4. 参考文献

随時指定

5. 講義予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 データの収集方法と分析方法について
- 第3回 データ収集開始及び経過報告
- 第4回 修士論文中間発表の準備
- 第5回 データ収集終了
- 第6回 データの分析
- 第7回 データの分析
- 第8回 調査方法の下書き
- 第9回 調査結果の下書き
- 第10回 文献の下書き
- 第11回 序論の下書き
- 第12回 調査方法、調査結果、文献、序論の推敲(1)
- 第13回 調査方法、調査結果、文献、序論の推敲(2)
- 第14回 結論の下書き
- 第15回 修士論文全体の推敲、完成

6. 評価方法

修士論文とその作成過程で総合的に評価。

7. その他

特になし

科目名	言語学特論 I			担当教員 :
科目名 (英語)	Linguistics I			メールアドレス :
単位数	受講年次	開講学期	研究室	研究室電話番号 :
2	1, 2	前期		オフィスアワー

1. 講義内容

to provide an overview of the field of morphology and practice in morphological analysis

2. 履修の要件

none

3. テキスト

none

4. 参考文献

*Linguistics, an Introduction* by Donna Jo Napoli (Oxford UP, New York, 1996)

3. 講義予定

- 第 1 回 mental images as concepts, arbitrariness, phonetic realization of morphemes
- 第 2 回 lexical and derivational morphemes, unitary base hypothesis, homophony
- 第 3 回 recognizing morphemes, productivity, borrowings
- 第 4 回 person, number, gender, and verbal inflection, inventory of morphological types; typology of languages by morphology
- 第 5 回 verbal inflections and affixes, new word formation, theories of morphology
- 第 6 回 prosodic (or templatic) morphology, reduplication, uses of reduplication
- 第 7 回 midterm exam
- 第 8 回 infixing, process morphology, compounding
- 第 9 回 interaction of compounding with other morphological processes, the interaction of compounding with syntax and semantics
- 第 1 0 回 bracketing paradoxes, valency and argument structure, case systems
- 第 1 1 回 adding and subtracting arguments, clitics
- 第 1 2 回 morphological problems
- 第 1 3 回 morphological problems
- 第 1 4 回 morphological problems
- 第 1 5 回 morphological problems
- 第 1 6 回 期末試験

5. 評価方法

- quizzes 5 0 points
- mid-term exam 2 5 points
- final exam 2 5 points
- total 1 0 0 points

6. その他 nothing

科目名	言語学特論Ⅱ			担当教員：
科目名(英語)	Special Lectures in Linguistics II			メールアドレス：
単位数	受講年次	開講学期	研究室	研究室電話番号：
2	1・2	後期		オフィスアワー
講義終了後または予約による。				

#### 1. 講義内容

20世紀前夜から21世紀に至る約百年は、戦争の世紀であった。国はどのようにその教育言語政策なかんずく言語政策をたてたのか。今、世界的に多くの言語が絶滅の危機に瀕していると言われているが、それは20世紀に各国がとった言語に対する無知と偏見が災いをもたらしたのではないか。このような観点から①言語学の果たした長足の発展②それとは裏腹に進められた中央集権的、均一化政策について概観する。

#### 2. 履修要件

英語の読解力と「やる気」があること。

#### 3. テキスト

クラスにおいて適宜配布する。

#### 4. 参考書

適宜紹介する。

#### 5. 講義予定

- 第1回 20世紀前夜の言語学
- 第2回 共時態 vs. 通時態
- 第3回 アメリカ大陸の言語
- 第4回 アメリカ言語学会の設立(1925)
- 第5回 ボアズ, サピア, ブルームフィールド (Boas, Sapir, Bloomfield)
- 第6回 その頃の日本Ⅰ: 1880~1930
- 第7回 その頃の日本Ⅱ: 1930~1945
- 第8回 言語に対する日米の政策の差 中間試験
- 第9回 構造主義言語学
- 第10回 「言語学の革命」—チョムスキー— (Chomsky)
- 第11回 生成文法理論
- 第12回 普遍性と多様性
- 第13回 言語教育と国際化
- 第14回 社会関係と言語
- 第15回 脳科学の発達: Native Speaker の意味 期末試験

#### 6. 評価方法

下記のとおり

課題レポート・試験等	50点
期末報告論文	50点
合計	100点

#### 7. その他

学期末に提出するタームペーパーは、講義の中で紹介される一人学者または言語のある側面について論述する。期末報告論文と適宜与えられるブックレポートは重要な評価の対象となる。

科目名	英文法特論			担当教員：
科目名(英語)	Special Lectures in English Grammar			メールアドレス：
単位数	受講年次	開講学期	研究室	研究室電話番号：
2	1, 2	前		オフィスアワー
講義終了後または予約による。				

### 1. 講義内容

言語は音声・語彙・文法から成り立ち、それぞれの言語には独特の発音の仕組み、語の仕組み、文を作る仕組みがあり、さらに語や文などの意味を法則が備わっているが、日本語や英語などの個別の言語はそれぞれ異質の仕組みをもった共通性のない全く別々の構造体系ではなくて、ヒトのみがもつ（他の動物にない）共通の基盤の上に成り立つものである。このことは母語を土台にして外国語である英語の文法へのアプローチを与えてくれる。この講義では、深層の言語の文法を意識しつつ日本語並びに英語の文法について学ぶ。

### 2. 履修要件

特になし

### 3. テキスト

『はじめて学ぶ言語学』 大津由紀雄 編著 ミネルヴァ書房 (2009)

### 4. 参考文献

適宜指示

### 5. 講義予定

- 第1回 ことば、文法、言語能力
- 第2回 音の仕組み 1
- 第3回 音の仕組み 2
- 第4回 語の仕組み 1
- 第5回 語の仕組み 2
- 第6回 文を作る仕組み 1
- 第7回 文を作る仕組み 2 中間試験
- 第8回 ことばの意味と法則
- 第9回 コミュニケーション 1
- 第10回 コミュニケーション 2
- 第11回 言語獲得と外国語学習
- 第12回 バイリンガリズム
- 第13回 ことばの理解のメカニズム
- 第14回 進化とことばの起源
- 第15回 ことばの教育：母語と第二言語
- 第16回 期末試験

### 6. 評価方法

- (1) クラスでの貢献 25点
- (2) 試験 25点
- (3) 期末レポート 50点

計100点

### 7. その他

学期末に提出するレポートは、①講義で話題となった事からについて各自で掘り下げて作成するか、②初心者よりの英語の教材を作成して提出すること。

科目名	米文学特論			担当教員：瀬名波 榮喜
科目名(英語)	American Literature			メールアドレス：e.senaha@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	研究室	研究室電話番号：
2	1～2	後	研究棟415 学長室	オフィスアワー
授業終了後・アポイントメント				

#### 1. 講義内容

20世紀を代表するアメリカの詩を鑑賞すると共にアメリカ文学の詩の伝統とモダニズムとの関係を研究する。20世紀の小説では「アメリカの夢」のテーマを研究する。アメリカ文学の特質を強調する。

#### 2. 履修要件

なし

#### 3. テキスト

テキストはクラスで紹介する。参考書のリストもクラスで配布する。

#### 4. 参考書

参考文献目録はクラスで配布する。

#### 5. 講義予定

- 第1回 Introduction
- 第2回 Edwin Arlington Robinson (1869-1935)
- 第3回 Robert Frost (1874-1963)
- 第4回 //
- 第5回 //
- 第6回 //
- 第7回 Carl Sandberg (1878-1967)
- 第8回 //
- 第9回 T(homas)S(terns)Eliot (1888-1965)
- 第10回 //
- 第11回 //
- 第12回 Scott Fitzgerald : Great Gatsby
- 第13回 //
- 第14回 //
- 第15回 Oral presentation
- 第16回 まとめ・期末試験

#### 6. 評価方法

- ・クラスでのディスカッション 20点
- ・オーラル・プレゼンテーション 30点
- ・リサーチ・ペーパー 50点
- ・合計 100点満点

#### 7. その他

クラスと平行して各作家の伝記や文学批評を多く読むこと。



科目名	地域言語学特論 I			担当教員：内間直仁
科目名(英語)	Special Lectures in Area Linguistics I			メールアドレス： 研究室電話番号：
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前		講義終了後または予約による。

#### 1. 講義内容

琉球語、日本語、韓国語、英語等の特定言語研究に関する方法論を研究する。音声・音韻・語形成、統語構造、談話構造、意味の構造などが中心的話題となる。また、時代的には20世紀初頭から今日までとなる。

#### 2. 履修要件

特にないが、日本語は勿論英語の読解力が必要。

#### 3. テキスト

クラスにおいて適宜配布する。

#### 4. 参考書

de Saussure, Jasperson, Bloomfield, Sapir, Jacobson, Hockett, Pike, Fries, Chomsky, Lakeoff 等の著作を含む書及び同時代の和書。

#### 5. 講義予定

- 第 1 回 言語音
- 第 2 回 音韻
- 第 3 回 音節
- 第 4 回 韻律
- 第 5 回 語
- 第 6 回 語形成
- 第 7 回 語彙
- 第 8 回 意味
- 第 9 回 意図
- 第10回 文・節
- 第11回 句
- 第12回 品詞
- 第13回 普遍文法
- 第14回 研究発表1
- 第15回 研究発表2
- 第16回 **期末試験**

中間試験

#### 6. 評価方法

下記のとおり

課題レポート等	50点
期末報告論文	50点
合計	100点

#### 7. その他

学期末に使用する①タームペーパー②言語の音声・音韻や文法・語彙等の事項を学習するための教材、及び適宜与えられるブックレポートは重要な評価の対象となる。

科目名	地域言語学特論II			担当教員：内間 直仁
科目名(英語)	Special Lectures in Area Linguistics II			メールアドレス： 研究室電話番号：
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期		講義終了後または予約による。

#### 1. 講義内容

社会言語学的視点から特定言語の多様性について研究する。地域社会、年齢、職業、集団、地位、性別、教養、親密度等の要因で言語がどのように変化するかが中心的な話題となる。また、複数の言語が接触することによって起こる現象にも触れる。

#### 2. 履修要件

地域言語学特論 I を履修済みであること

#### 3. テキスト

適宜配布する。

#### 4. 参考書

Dorian, Fishman, Fasold, Gumperz, Haugen, Labov, Lambert, Trudgill 等の著作を含む洋書、並びに同時代の和書。

#### 5. 講義予定

- 第 1 回 言語と方言と個人語
- 第 2 回 地域的方言
- 第 3 回 社会的方言
- 第 4 回 多言語社会
- 第 5 回 言語とアイデンティティ
- 第 6 回 言語と文化
- 第 7 回 言語のスタイル
- 第 8 回 言語と性 中間試験
- 第 9 回 非言語コミュニケーション
- 第10回 言語政策
- 第11回 言語教育
- 第12回 バイリンガル教育
- 第13回 国際語 (英語)
- 第14回 研究発表1
- 第15回 研究発表2
- 第16回 期末試験

#### 6. 評価方法

下記のとおり

課題レポート・試験等	50点
期末報告論文	50点
合計	100点

#### 7. その他

学期末に提出する①タームペーパー②言語の音声・音韻や文法・語彙等の事項に関する資料の発掘及び適宜与えられるブックレポートは重要な評価の対象となる。

科目名	英文学特論			担当教員：瀬名波 榮喜
科目名(英語)	English Literature			メールアドレス：e.senaha@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	研究室	研究室電話番号：0980-51-1223
2	1～2	前	研究棟415 学長室	オフィスアワー
授業終了後・アポイントメント				

#### 1. 講義内容

イギリスロマン派詩人ワーズワースとコウルリッジの詩論と作品を中心に研究する。ただし、他のロマン派詩人にも言及する。特にその背景となったフランス革命や人間と自然との関係を論じたい。本講義は、作品と詩人の生きた時代精神、政治・宗教的思想との関係そして作品の現代性等の研究を目的とするもので、その成果を期待する。

#### 2. 履修要件

なし

#### 3. テキスト

Romantic Poetry, ed. Michael O'Neil & Charles Mahony, 2008

#### 4. 参考書

参考文献目録は、授業開始日にクラスで配布する。

#### 5. 講義予定

- 第 1 回 Introduction : Political and industrial background of the Romantic Movement
- 第 2 回 Preface to the Second Edition of the *Lyrical Ballads*
- 第 3 回 Lucy Poems
- 第 4 回 //
- 第 5 回 //
- 第 6 回 Goody Blake and Harry Gill, The Thorn, The Idiot Boy, etc.
- 第 7 回 Anecdote for Fathers, We are Seven, Expostulation and Reply, The Tables Turned, etc.
- 第 8 回 Lines written a few miles above Tintern Abbey
- 第 9 回 //
- 第10回 The Brothers, Michael
- 第11回 //
- 第12回 The Rime of the Ancient Mariner
- 第13回 //
- 第14回 //
- 第15回 Oral presentation
- 第16回 まとめ・期末試験

#### 6. 評価方法

- ・クラス・ディスカッション 20点
- ・口頭発表 30点
- ・リサーチ・ペーパー 50点
- ・合計 100点満点

#### 7. その他

クラスと平行して参考文献リストの研究と図書を数多く読むこと。また、10～15頁のリサーチ・ペーパーを提出し、それを最終日に口頭発表すること。

科目名	英語音声学特論			担当教員：
科目名 (英語)	English Phonetics and Phonology			メールアドレス： 研究室電話番号：
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1, 2	前期		

1. 講義内容 a basic course in English phonetics and phonology

2. 履修の要件 none

3. テキスト

There is no single text. There may be several handouts and books to be lent from the instructor's personal library.

4. 参考文献

*The Structure of American English* by Francis (Ronald Press, 1958)

*An Introduction to Descriptive Linguistics* by Gleason (Holt, Rinehart and Winston, 1961)

*The Sound Patterns of English* by Chomsky and Halle (Harper& Row, 1968)

*Modern Phonology* by Sommerstein (Edward Arnold, 1977)

最新の音声学・音韻論 by 島岡 丘 (研究社出版, 1991)

日本語の音声 by 窪園 晴夫 (岩波書店, 2004)

5. 講義予定

第 1 回 review syllabus (including preview of morphophonemic processes); diagnose student pronunciation challenges; introduce descriptive terms including vocal tract chart and IPA for English consonants, vowels and diphthongs

第 2 回 continue description for English consonants, vowels and diphthongs; sound classes (obstruents, high vowels, etc.)

第 3 回 introduce names for processes: deletion, insertion, voicing, devoicing, assimilation, dissimilation, stress shift, stress retraction, suppletion, vocalization, rounding, diphthongization, flapping, palatalization, affricativization, degemination, lengthening, shortening, vowel reduction, contraction, ablaut

第 4 回 continue introducing names for processes

第 5 回 allomorphs of *an/a*, *the*, possessive suffix, 3<sup>rd</sup> person present tense suffix, noun plural, past tense in regular verbs (including vowel preservation in adverbs like *deservedly*)

第 6 回 palatalization processes

第 7 回 consonant voicing and devoicing processes

第 8 回 mid-term exam

第 9 回 consonant deletion processes

第 10 回 vowel shift alternations (including an historical perspective)

第 11 回 contraction of *not* and *will*; glide-vocalization; [k] becoming [s]

第 12 回 assimilation of nasal consonants (including) negative *in-*; transition consonants

第 13 回 the role of stress

第 14 回 stress shift forwards and backwards

第 15 回 flapping; vowels lengthening; *ju*-insertion; orthographic *ea*

第 16 回 期末試験

5. 評価方法

- quizzes 20 points
- mid-term exam 40 points
- final exam 40 points
- total 100 points

6. その他 nothing

科目名	英語教授法特論 I			担当教員 : Caroline Latham
科目名 (英語)	Advanced TESOL Theories and Methodology I			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	516	ドアに書いてあり

講義内容 : This course is geared toward the needs of those graduate students planning to pursue a career in teaching English language. The readings are intended to provide an understanding of the field of language teaching in general and, more specifically, to illustrate the most effective methods of teaching English language to those whose native language is other than English. The readings review the history of second/foreign language teaching, twentieth century trends and developments and the current theories and methods most widely recognized today, as well as the two skill areas of aural comprehension and oral production. Various popular methods of the past and present will be demonstrated and practiced, following which their merits and demerits will be discussed. Students will also learn how to evaluate methods, materials and techniques independently as well as how to work on syllabus development for different level language classes. This course is the first semester of a two semester seminar course. Part II is given annually during the second semester.

履修要件 : Requirements for this course are a good knowledge of English because the readings will all be in English, the class discussions will be conducted in English and any/all presentations and papers are expected to be in English.

テキスト : Due to the many sources, materials will be distributed for students to keep in their A4 loose-leaf notebook.

参考書 : Students are expected to acquire an A4 loose-leaf notebook lined, loose-leaf paper for handouts and notes.

#### 講義予定

- 第 1 週 Introductions: course, materials, requirements, etc.
- 第 2 週 Discussion: 1st reading on history of language teaching
- 第 3 週 Discussion on 1st reading, continued, Intro of reading 2
- 第 4 週 Discussion/comparison: readings 1 and 2: content/approach
- 第 5 週 Video of EFL language class and follow up discussion
- 第 6 週 Introduction: readings on current theories & methodology
- 第 7 週 Discussion of readings on current theories & methodology
- 第 8 週 Demonstration by professor of selected methods & discussion of merits/demerits/adaptability of methods
- 第 9 週 Introduction of readings on aural comprehension skills
- 第 10 週 Discussion of readings on aural comprehension skills
- 第 11 週 Introduction of readings on oral production skills
- 第 12 週 Discussion of readings on oral production skills
- 第 13 週 Student presentations demonstrating various methods
- 第 14 週 Student presentations demonstrating various methods
- 第 15 週 Course Review Final evaluative opportunities

N.B. Throughout the course, there will be periodic short unannounced quizzes on readings and activities.

評価方法 : Basic Grading Criteria for the Course:

Active participation	40%
Special project and presentation	35%
Quizzes and final "FEO" test	25%

科目名	英語教授法特論 II			担当教員 : Caroline Latham
科目名 (英語)	Advanced TESOL Theories and Methodology II			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	516	ドアに書いてあり

講義内容 : This course is the second semester continuation of the TESOL seminar given during the first semester. It is geared toward the needs of individuals planning to pursue a career in teaching English language, primarily to native speakers of other languages. The readings and activities are intended to provide an understanding of the field of language teaching in general and, more specifically, to illustrate the most effective methods of teaching English language to non-native English speakers. The readings will focus on reading comprehension and written composition skills. Popular methods, past and present, will be demonstrated and their merits discussed. Readings on comparative studies of L1/L2 learners, “good” LLs, “world Englishes”, and other current topics will also be covered. Students will learn how to evaluate methods, materials and techniques independently and how to work on syllabus development. They will present a demonstration class and participate in at least one professional meeting such as JALT or JACET to meet others individuals involved in language education.

履修要件 : The primary requirement for enrollment in this course is the successful completion of the first semester seminar; Advanced TESOL Theories and Methodology Pt. I.

テキスト : As in Pt. I, appropriate materials will be distributed to the students.

参考書 : Students will again need an A4 loose-leaf notebook and lined paper.

講義予

- 第 1 週 Introduction to course, materials, requirements, etc.
- 第 2 週 Review of topics covered during Pt. I, first semester
- 第 3 週 Introduction of readings on reading comprehension
- 第 4 週 Discussion of 1<sup>st</sup> reading on reading comprehension
- 第 5 週 Discussion continued and relevant activities demonstrated
- 第 6 週 Discussion of 2<sup>nd</sup> reading and practice activities
- 第 7 週 Review of reading comprehension considerations
- 第 8 週 Introduction of readings on written composition skills
- 第 9 週 Discussion of 1<sup>st</sup> reading on written composition skills
- 第 10 週 Discussion continued and relevant activities demonstrated
- 第 11 週 Discussion of 2<sup>nd</sup> reading and practice activities
- 第 12 週 Review of written composition considerations
- 第 13 週 Readings on CLA/L2 LLs, “World Englishes”, etc.
- 第 14 週 Student demonstrations/project reports
- 第 15 週 Student demonstrations/project reports Final Evaluative Opportunities (course/self/exam)

(N.B. Periodic unannounced short quizzes may be given during the semester.)

評価方法 : Criteria for Final Grading for the Course:

Active participation	40%
Special project and presentation	35%
Quizzes and “FEO” final test	25%

科目名	科目名：英語教育評価特論			担当教員：渡慶次 正則
科目名 (英語)	Assessment in TESOL			メールアドレス：tokeshizemi@hotmail.co.jp 研究室電話番号：0980-51-1235
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1	前	512	月曜6時限

1. 講義内容

4技能の評価方法を中心に、評価の妥当性や信頼性、実用性を話し合う。教室や教室外における現在の評価の問題 (issues) を取り上げる。

2. 履修要件

特になし。

3. テキスト

“Testing for language teachers (2<sup>nd</sup> ed.)” CPU

4. 講義予定

- 第1回 オリエンテーション、登録、評価についての issues (Chaps 1&2)
- 第2回 Kinds of tests and testing (Chap. 3)
- 第3回 Validity, reliability, practicality (Chaps.4&5)
- 第4回 Achieving beneficial backwash (Chap.6)
- 第5回 Stages of test development (Chap.7)
- 第6回 Common test techniques (Chap.8)
- 第7回 Testing writing (Chaps.9)
- 第8回 Testing oral ability (Chaps.10)
- 第9回 Testing reading (Chaps.11)
- 第10回 Testing listening (Chap.12)
- 第11回 Testing grammar and vocabulary (Chap. 13)
- 第12回 Testing overall ability (Chaps.14)
- 第13回 Tests for young learners (Chaps.15)
- 第14回 テスト ESP の評価
- 第15回 課題提出 (iBT, TOEIC, 英語検定をいずれかを分析、評価する。約 4,000 字)

5. 評価方法

出席 30点  
宿題 70点  
合計 100点

6. その他

教科書は英語版を用いるため、英語能力が高い学生が望ましい。  
授業も主に英語で説明するが多い。

科目名	リサーチ方法特論			担当教員：渡慶次 正則
科目名(英語)	Research methodology			メールアドレス：tokeshizemi@hotmail.co.jp
単位数	受講年次	開講学期	研究室	研究室電話番号：0980-51-1235
2	1	後期	512	オフィスアワー
月曜日6時限				

1. 講義内容

社会科学や人文科学における質的研究と量的研究の基礎的な知識と技能を身に付け、リサーチプロポーザル完成の支援をするリサーチの概論コース。修士論文の構成や論文作成上の留意点を話し合う。

2. 履修要件

特になし。

3. テキスト

Introduction to Social Research (SAGE 社)

4. 参考文献

Introduction to Social Research (SAGE 社)

5. 講義予定

- 第 1 回 オリエンテーション、登録、リサーチ・トピックと概要の発表
- 第 2 回 リサーチとは、リサーチ・デザイン、リサーチ・クエスション (Chap.1,2,3)
- 第 3 回 質的研究と量的研究 (Chap.4) リサーチ・プロポーザルの形式
- 第 4 回 質的研究 (1) (Chaps.8,9)
- 第 5 回 質的研究 (2) (Chaps.9,10) 質的研究と量的研究の相違 (宿題提出)
- 第 6 回 統計分析のプランと方法 (descriptive statistics) (Chaps.5,6)
- 第 7 回 統計 (t-test, ANOVA, chi-square, Pearson's r, など) (Chaps.6,7)
- 第 8 回 Mixed research design
- 第 9 回 量的、質的補講、論文構成 (Research Methodology)
- 第 10 回 量的、質的補講、論文構成 (Results, Discussion)  
質的か量的方法によるリサーチ・デザイン (宿題提出)
- 第 11 回 量的、質的補講、論文構成 (Literature Review)
- 第 12 回 量的、質的補講、論文構成 (Introduction, Conclusion)
- 第 13 回 統計処理 (Excel, SPSS) リサーチプロポーザルの提出 (宿題提出)
- 第 14 回 リサーチ・プロポーザルの発表 (1)
- 第 15 回 リサーチ・プロポーザルの発表 (2)

6. 評価方法

- 出席 20点
- 質的・量的研究の相違 (宿題) 10点
- 質的か量的研究方法によるリサーチ・デザイン 20点
- リサーチ・プロポーザル 50点

7. その他



科目名	理論言語学特論			担当教員：
科目名 (英語)	Theoretical Linguistics			メールアドレス： 研究室電話番号：
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期		

1. 講義内容

to provide an overview of concepts and issues in phonological theory, and practice in phonological analysis

2. 履修の要件

English Phonetics and Phonology/英語音声学特論

3. テキスト

no text

4. 参考文献

*Linguistics, an Introduction* by Donna Jo Napoli (Oxford UP, New York, 1996)

最近の音声学・音韻論 by 島岡 佐藤＝著 (研究社出版)

5. 講義予定

- 第 1 回 linear phonology; assimilation
- 第 2 回 palatalization, loss, syllable types
- 第 3 回 epenthesis, compensatory lengthening, metathesis, dissimilation
- 第 4 回 geometric phonology, comparing linear and geometric phonology
- 第 5 回 metrical phonology, bounded feet, five parameters
- 第 6 回 foot or no foot, unbounded feet, English stress
- 第 7 回 metrical grids
- 第 8 回 midterm exam
- 第 9 回 lexical phonology, cycles and the strict cycle condition
- 第 10 回 postlexical rules
- 第 11 回 underspecification theory in lexical phonology, structure preservation
- 第 12 回 optimality theory
- 第 13 回 optimality theory continued
- 第 14 回 phonological problems
- 第 15 回 phonological problems
- 第 16 回 期末試験

5. 評価方法

- quizzes 50 points
- mid-term exam 25 points
- final exam 25 points
- total 100 points

6. その他 nothing

科目名	比較教育文化思想特論			担当教員：
科目名(英語)	Comparative Education			メールアドレス：
単位数	受講年次	開講学期	研究室	研究室電話番号：
2	1・2	後期		オフィスアワー
講義終了後				
<p>1. 講義内容</p> <p>まず、西洋教育の源流である古代ギリシャ教育思想と古代ローマ教育思想、キリスト教教育の源流である中世修道院と近世宗教改革の教育思想、現代教育の源泉である中世の騎士道思想と人文主義の教育思想を扱い、次いでアメリカ教育の源泉を、(1) アメリカ教育の中心的思想という観点から大学エクステンションという切り口で分析する。即ち、エクステンションの歴史をその植民地時代の草創期から 21 世紀の今日までの変遷を通して概観し、教育、社会、生涯学習などとの関連を明らかにする。また、(2) ベンジャミン・フランクリンの『自叙伝』に記述されている、十三徳の成立・実践過程を通して、アメリカ人の自己形成思想の源流を探る。まとめとして、徳川時代と明治時代の教育を、東アジアという視点から分析し、今後の日本の進むべき方向を考える。</p> <p>2. 履修要件</p> <p>学部の教職科目を履修していること。</p> <p>3. テキスト</p> <p>特定のテキストはない。ただし、毎回、資料（論文等を含む）を配布する。</p> <p>4. 参考文献</p> <p>講義が広範囲にまたがり、特定のものを挙げることは困難だが、必要に応じて入手しやすいものを紹介する。</p> <p>5. 講義予定</p> <p>第 1 回 オリエンテーション、古代スパルタとアテネにおける教育思想と実践</p> <p>第 2 回 古代アテネにおける修辞学校。ソクラテス、ソフィスト、プラトンの現代的意義</p> <p>第 3 回 古代ローマ人の社会文化的思想</p> <p>第 4 回 古代ローマにおける雄弁学校</p> <p>第 5 回 中世騎士にみる生活と教育的信条</p> <p>第 6 回 中世修道院にみる生活と教育的信条</p> <p>第 7 回 人文主義（ルネサンス期）と人間創造の思想</p> <p>第 8 回 宗教改革と教育拡大の思想</p> <p>第 9 回 米国大学エクステンションの誕生（1）。エール大学の改革、ライシャム運動、モリル法の制定</p> <p>第10回 米国大学エクステンションの誕生（2）。国有地交付大学と研究大学の誕生、ショトーカ運動</p> <p>第11回 米国大学エクステンションの発展（1）。第一次世界大戦終結頃までの社会的、思想的展開</p> <p>第12回 米国大学エクステンションの発展（2）。第二次世界大戦以降、現代までの社会的、思想的展開</p> <p>第13回 ベンジャミン・フランクリンの自己形成思想とその実践</p> <p>第14回 徳川時代における教育の多様性</p> <p>第15回 国家形成における教育の役割</p> <p>第16回 学期末試験</p> <p>6. 評価方法</p> <p>(1) 講義への積極的参加、関連する文献の読み取り、討論への参加など</p> <p>(2) 学期末試験の結果</p> <p>7. その他</p> <p>講義の中で触れる文献を各自で検索し読んでおくこと。</p>				

科目名	琉球歴史学特論			担当教員：井上秀雄
科目名(英語)	Ryukyu History			メールアドレス： 研究室電話番号：
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後	非常勤講師控室	講義終了後20分程度

#### 1. 講義内容

琉球王国は、日本の歴史の中の地域史として位置づけることは出来ない。  
東アジア全域にわたって交易した独立国家であった。この講義では、中国をはじめとする東アジア全域との交易の歴史を、「歴代宝案」という外交文書を解読しながら理解する方法をとる。

#### 2. 履修要件

特になし

#### 3. テキスト

その都度プリントを配る。歴代宝案のコピーを使用する。

#### 4. 参考文献

特になし。講義の中で紹介する。

#### 5. 講義予定

- 第1回 東アジアにおける琉球王国の位置
- 第2回 琉球王国大交易時代の意義と課題
- 第3回 「万国津梁之鐘」から見た琉球王国
- 第4回 琉球王国と中国との交流（朝貢） ……①
- 第5回 // // ……②
- 第6回 // // ……③
- 第7回 // // ……④
- 第8回 琉球王国と朝鮮との交流 ……①
- 第9回 // // ……②
- 第10回 琉球王国シヤム（タイ国）との交流 ……①
- 第11回 // // ……②
- 第12回 // // ……③
- 第13回 琉球王国とジャワとの交流
- 第14回 琉球王国とマラッカとの交流
- 第15回 琉球王国と安南（ヴェトナム）との交流
- 第16回 学期末試験

#### 6. 評価方法

- ・レポート 20点
- ・活動状況 10点
- ・試験 70点
- ・合計 100点

#### 7. その他

特になし

科目名	沖縄地域文化研究特論			担当教員：中村 誠司
科目名(英語)	Special Issues in Culture Studies of Okinawa			メールアドレス：s.nakamura@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	研究室	研究室電話番号：0980-51-1231
2	1・2	前期	508	オフィスアワー
毎日 17 時～19 時				

### 1. 講義内容

受講学生のこれまでの「沖縄の歴史と文化」に関する基本学習・知識を磨きなおし、その深化を図る。講義は、『沖縄の歴史と文化』（沖縄県教育委員会、2000年）を基に構成・展開するが、地域イメージと理解、研究方法を具体化するため名護・山原の事象・事例を積極的にとりあげる。さらに、地域文化の現場・現物経験の重要性を考え、＜野外講義＞として資料機関見学、地域巡見を設定する。

受講学生は、各回のテーマについて「テキスト要約」レポートを作成し、発表する。

### 2. 履修要件

特になし。

### 3. テキスト

『沖縄の歴史と文化』 沖縄県教育委員会 2000年 ※コピー提供

『The History and Culture of Okinawa』 沖縄県教育委員会 2000年 ※コピー提供

『琉球・沖縄史 ジュニア版』 新城俊昭 東洋企画 2008年

『名護市5000年の記憶』 名護市 2000年

### 4. 参考文献

随時情報を提供する。

### 5. 講義予定

第1回 「沖縄の歴史、地域文化」への視覚

第2回 沖縄の位置と自然・風土

第3回 第1部・1 沖縄の歴史：旧石器時代からグスク時代

第4回 第1部・2 琉球王国時代・1（古琉球）

第5回 第1部・2 琉球王国時代・2（近世琉球）

第6回 第1部・3 近代の沖縄 ・沖縄戦

第7回 第1部・4 戦後アメリカ統治時代

第8回 第1部・5 復帰後の沖縄

第9回 第2部・1 沖縄文化の地域特性と多様性

第10回 第2部・2 村落の住まいと風景

第11回 第2部・3 祭りと年中行事

第12回 第2部・4 食文化

第13回 第2部・5 芸能

第14回 第2部・6 伝統工芸

第15回 第2部・7 沖縄地域文化の現在と将来

※ 以上の室内講義に加え、野外講義（見学・巡見）を2回設定する。

※ 期末筆記試験は実施しない。講義レポート、小研究レポートを課す。

### 6. 評価方法

レポート1（講義内容要約） 70点

レポート2（テーマ小研究） 30点

合計 100点

### 7. その他

特になし。

科目名	東南アジア文化特論			担当教員：山田均
科目名(英語)	Seminar on SEA culture			メールアドレス：yamathai@ona.att.ne.jp
単位数	受講年次	開講学期	研究室	研究室電話番号：0980-51-1232
2	1, 2	前期	509	オフィスアワー
				火5 水5

#### 1. 講義内容

東南アジアを中心にアジアの文化事象について論じる。文化事象のどの部分に焦点を当てるかは受講者の興味関心による。当面は、言語を使った表現、詩、演劇、芸能などを扱う。「読む文学」というより「聞く文学」「語る文学」「見る文学」であるから、毎回必ず視聴覚教材を使う。

#### 2. 履修要件

とくになし。

#### 3. テキスト

プリントを用意する。音源や映像資料も講師が用意する。

#### 4. 参考文献

参考文献がある場合はそのつど指示をする。簡単な地図帳と年表を手元に置いておくこと。

#### 5. 講義予定

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 東アジアの芸能について
- 第3回 古代の芸能（雅楽、神楽、祝詞、記紀歌謡）
- 第4回 中世の芸能（能、狂言、万歳、声明、念仏、平曲）
- 第5回 武家の芸能（謡曲、箏曲）
- 第6回 町人の芸能（歌舞伎、常磐津、清元、長唄、新内）
- 第7回 朝鮮、満州、モンゴルの芸能
- 第8回 中国の芸能
- 第9回 タイの詩文と芸能
- 第10回 ベトナムの詩文と芸能
- 第11回 マレー世界の詩文と芸能
- 第12回 台湾・ポリネシアの詩文と芸能
- 第13回 インド・イランの言語芸術
- 第14回 スリランカ、ネパールの詩文と芸能
- 第15回 まとめ

#### 6. 評価方法

平常点による評価。授業への参加度や意見の内容、ノートの内容などで評価する。

#### 7. その他

受講者の専門分野や研究テーマに利益となるような内容にする。積極的に自分の研究と関連させて理解を深めてほしい。楽しい時間になりたいと考えている。

科目名	中南米文化特論			担当教員：住江 淳司
科目名(英語)	Latin-American Cultures			メールアドレス：j.sumie@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	研究室	研究室電話番号：0980-51-1228
2	1・2	後	505	オフィスアワー
				火曜日：10:30～12:10
				木曜日：10:30～12:10

#### 1. 講義内容

ラテンアメリカは、日本から地理的に最も遠いという理由で馴染みの浅い地域でありました。しかし、世界的に見た場合そのプレゼンスは大きいものです。たとえば経済の規模は東アジアに匹敵しますし、混血社会は対立をはらみながらも人間社会の一つのあるべき姿を代表としています。今日の民族的、宗教的な地域紛争の解決のモデル地域になる可能性を含んでいるかも知れません。また、ラテンアメリカは数多くの独創性に富んだ思想、文学、芸術を生む舞台でもあります。政治、経済、社会研究においても多くの優れた成果を生み出してきました。つまり、我々はラテンアメリカから多くのことを学びえるのです。

#### 2. 履修要件

特になし

#### 3. テキスト

小池洋一著 『図説ラテンアメリカ』、日本評論社、1999年。

#### 4. 参考書

国本伊代・中川文雄編著 『ラテンアメリカ研究への招待』、新評論、1997年。

#### 5. 講義予定

- 第1回 講義概要の説明
- 第2回 ラテンアメリカの自然と人
- 第3回 ラテンアメリカの開発体制
- 第4回 ラテンアメリカの政治と民主化
- 第5回 輸入代替工業化とインフレーション
- 第6回 対外債務累積問題
- 第7回 ラテンアメリカの土地制度
- 第8回 労働市場の二重化とインフォーマル・セクター
- 第9回 ラテンアメリカの所得分配
- 第10回 工業化と都市化による社会生活の変化
- 第11回 社会格差とスラム問題
- 第12回 カトリック教会と解放の神学
- 第13回 悪化する都市環境
- 第14回 小さな政府（民主化と地方分権化）
- 第15回 ネオリベラリズム
- 第16回 期末試験

#### 6. 評価方法

期末試験	70点
レポート	30点
合計	100点

#### 7. その他

科目名	第2言語習得特論			担当教員 : Stephen A. Templin
科目名(英語)	Second Language Acquisition			メールアドレス : s.templin@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	研究室	研究室電話番号 : 0980-51-1211
2	1・2	後	402	オフィスアワー
研究室内のドアに書いてあります				

#### 1. 講義内容

本講義では、第二言語習得の五つの点を研究します。(1) 第二言語習得研究：概観、(2) 学習者の誤りと誤答分析、(3) 発達パターン：第二言語習得の順序と道筋、(4) 学習者言語の多様性、(5) 学習者言語の語用論的側面。

#### 2. 履修要件

特になし。

#### 3. テキスト

・『The study of second language acquisition』 Rod Ellis. Oxford University Press.

#### 4. 参考書

・『第二言語習得序説』 ロッド・エリス著. 金子朝子訳. 研究社出版.  
: プリント配布

#### 5. 講義予定

- 第1回 第二言語習得とは何か?
- 第2回 第二言語習得研究で取り上げられる問題
- 第3回 L2修得研究のための枠組み
- 第4回 学習者言語
- 第5回 学習者言語のサンプル収集
- 第6回 発達パターンの調査方法
- 第7回 理論的
- 第8回 学習者言語における多様性の類型
- 第9回 学習者言語の自由な多様性
- 第10回 組織的な多様性
- 第11回 多元要因アプローチ
- 第12回 発話行為と発話の意味
- 第13回 学習者言語の発話内行為研究の調査方法
- 第14回 学習者言語の発話内行為
- 第15回 まとめ
- 第16回 <期末テスト>

#### 6. 評価方法

下記のとおりとする。

学習態度	30点
課題	30点
テスト	40点
合計	100点

#### 7. その他

特になし。

科目名	琉球・沖縄歌謡特論			担当教員：内間直仁
科目名(英語)	Ballads of the Ryukyus			メールアドレス： 研究室電話番号：
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前		

#### 1. 講義内容

奄美大島以南から与那国以北・・・琉球文化圏の島々では、本土ではすでに失われていた呪禱的歌謡・叙事的歌謡をはじめ、抒情的歌謡が祭祀や生活の中で厳粛にまた生き生きと伝承されてきた。この地で生まれ育ってきた人々の生の証だけでなく、詩の発生原理、歌謡ジャンルの展開、三輪山伝説、神話から歌謡へ、をなり神信仰、死と再生など、歌謡の基本的な諸問題も提示してくれるものである。その典型的な像を示してくれる宮古の歌謡を軸にして、奄美・沖縄・八重山歌謡に触れ、琉球・沖縄歌謡の全体像を追究していく。同時に可能な限り臨地調査に出かけ、祭祀と歌謡の関係を観察させたい。

#### 2. 履修要件

「南島歌謡」を履修していること。

#### 3. テキスト

新里幸昭『宮古の歌謡』2003年沖縄タイムス社。

#### 4. 参考書

新里幸昭『宮古歌謡の研究』2005年文進印刷株式会社  
『やんばるの祭りと神歌』1997年名護市教育委員会 共編著  
外間守善他『南島歌謡大成』I～V 1978年～1980年 角川書店

#### 5. 講義予定

- 第1回 自己紹介、講義内容、進め方説明、登録説明
- 第2回 琉球・沖縄歌謡の言語
- 第3回 琉球・沖縄歌謡の全体像と系譜
- 第4回 宮古の呪詞と奄美・沖縄・八重山の呪詞
- 第5回 宮古の呪禱的歌謡と奄美・沖縄・八重山の呪禱的歌謡
- 第6回 宮古の呪禱的歌謡と奄美・沖縄・八重山の呪禱的歌謡
- 第7回 宮古の呪禱的歌謡と奄美・沖縄・八重山の呪禱的歌謡
- 第8回 宮古の叙事的歌謡と奄美・沖縄・八重山の叙事的歌謡
- 第9回 宮古の叙事的歌謡と奄美・沖縄・八重山の叙事的歌謡
- 第10回 宮古の叙事的歌謡と奄美・沖縄・八重山の叙事的歌謡
- 第11回 宮古の抒情的歌謡と奄美・沖縄・八重山の抒情的歌謡
- 第12回 宮古の抒情的歌謡と奄美・沖縄・八重山の抒情的歌謡
- 第13回 宮古の抒情的歌謡と奄美・沖縄・八重山の抒情的歌謡
- 第14回 歌謡特論まとめ
- 第15回 歌謡特論まとめ
- 第16回 学期末テスト

#### 6. 評価方法

活動状況	25点
課題レポート	50点
期末テスト	25点
合計	100点

#### 7. その他

特にない